

学習内容報告書 フォーマット

学校名	北海道標津高等学校
授業者	鈴木 祐二

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

7. 野付巡検

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間 生物基礎 現代社会

1-4. 単元の概要

事前学習を歴史的側面から地歴科が実施し、野付半島の交易の拠点としての役割やアイヌ民族と和人の関わりについて学習を行う。さらに地学的側面から野付半島の成り立ちから自然環境、海洋環境との繋がりについて専門員を外部講師に招き講話を実施する。

巡検当日は、野付崎先端部までの特別上陸許可を申請し、先端部の散策を行い漂着物から海流や海外との関連性についての探究活動を行う。また、トドワラ周辺の散策路では、植物観察から植生についての学びを生物基礎の既習内容と合わせて学ぶ。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

第1学年の総合的な探究の時間として実施することで地域の自然環境から歴史について教科横断的に学習することで地域の自然環境に興味関心を高める。さらに、巡検を行うことで主体的に学ぶ態度を育成し、漂着物の調査を行うことで海洋の時空的なつながりに気づかせることをねらいとする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・豊かな自然環境に囲まれている環境を理解し、保全しようとする態度
- ・長い歴史の中に存在する自分を感じることで歴史に育まれた地域を理解しようとする力
- ・主体的に学び、表現する力
- ・自他の生命や個性を尊重し、自然と共生することの大切さを感じとる態度

1-7. 単元の展開（全6時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>生物基礎で実施</p> <p>外部講師による野付半島の地質学的学習と自然環境についての解説。アマモ場を中心にした生態系の学習。</p>	<p>外部講師との連絡調整</p> <p>野付ネイチャーセンター専門員 石下 亜衣紗 氏</p>
1	<p>現代社会で実施</p> <p>アイヌと和人の関わりと交易拠点としての野付半島に関する学習。観光的側面を含めた内容を学ぶ。</p>	<p>スライドによる学習</p>
6	<p>総合的な探究の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野付先での食性の観察と江戸末期の史跡を探索する。 ・先端部へ漂着する海洋ゴミから世界とのつながりを学ぶ。 ・ネイチャーセンター付近の遊歩道にて植物観察とスケッチを行う。立ち枯れしたトドマツ・ミズナラの観察と野付半島の成り立ちを理解させる。 	<p><巡検前></p> <p>安全指導と立ち入り制限地域での注意事項について指導。</p> <p>漂着物の回収について注意指導</p> <p><巡検中></p> <p>生徒観察</p> <p>引率教員による安全確認</p> <p><巡検後></p> <p>ゴミの回収と分別（トラックへの積み込み）</p> <p>生徒移動の準備</p> <p><自然観察></p> <p>遊歩道での安全指導</p> <p>巡回指導</p> <p><外部連携></p> <p>野付ネイチャーセンター</p> <p>別海町役場</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

巡検を通して

- ・地域の歴史文化を学習し、多様な文化風習について理解を深める。
- ・砂嘴という特異な地形を学習し、実際に野付崎の景観を観察することでその形成過程からこれからの変容について理解を深める。また、漂着物を調べることで海洋の時空的繋がりを理解する。
- ・植物観察を通して野付半島の植生を理解し、植物のスケッチを行うことで植物への興味関心を高め、自然を大切にすることを育成する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 バス乗車・点呼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち物の確認 ・WC 確認 <p>野付ネイチャーセンターにてトイレ確認 野付先へ移動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任団はバス添乗指導 ・理科・社会科担当教員は、ゴミ回収用トラックおよび別車にて先に出発する。 <p>野付ネイチャーセンターにて先端部乗り入れ許可証を受け取る。</p>
<p>2 先端部にて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点呼 ・先端部での注意事項 <p>出発</p> <p>往路は、自然観察や遺跡探索、地形の特徴を掴む 復路は、漂着物を拾いながらバスまで戻る。</p> <p>トラック前で計量</p> <p>昼食</p> <p>移動</p>	<p>バスが到着次第、バスへ許可証を提示。 教員が引率し、先端部へ 自然環境保護を意識させた指導する。</p> <p>火ばさみとボランティアゴミ袋を生徒へ渡す。 ゴミ袋に入らないゴミは拾わないことと海外の漂着込みに気を配らせる。 燃えるゴミ及び燃えないゴミで分別し計量する。</p>
<p>3 ネイチャーセンター付近にて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点呼、WC ・遊歩道で散策及び植物観察 <p>バスに乗車</p>	<p>植物観察時の注意事項を伝える 観光客の迷惑にならないようにスケッチすること ゴミ処理は、ネイチャーセンターに依頼。</p>
<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H Rにて感想文 	<p>H Rにて振り返り</p>



[特別許可を得て砂嘴先端部へ]



[砂嘴を散策しながらゴミ拾い]



[漂着ゴミから視野を広げる]



[仲間と協力して活動を行う]

3. 今回の活動の自己評価

事前指導を行うことで生徒の興味関心を引き出した状態で実施できた。また、ゴミ拾いでは積極性が見られ漂着ごみの中にどのようなものが多いのか考えながら回収することができた。産業とゴミの関係の理解が深まった。自然観察も積極的に行う姿が見られ、生物の多様さ、植生を意識した学習ができていた。

4. 今後の課題

ゴミ処理等で使用するトラックの借用にかかる経費をどこで賄うか。また、別海町役場との事前のゴミ処理に関する打ち合わせを行っておく必要がある。外部講師の依頼は、早めに行い、講師の都合と総合的探究の時間の調整を実施する。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特異な地形を有する当地域に合わせた学習であるが、地形の観察や自然観察を行う巡検を行う時に応用ができるプログラムとなっている。